

## 令和2年度 第2回学校評議員会議

- 1 日時 令和3年2月2日（火）10：45～11：50
- 2 参加者  
評議員 大学教授、有識者、同窓会役員、後援会理事、PTA会長  
学校側 校長、教頭、事務長、教務部主任、生徒指導部主任、進路指導部主任、  
教務部記録

### ◆校長挨拶

（校長）今年度はコロナに始まってコロナがまだ終わると言えない状況下で、本校の学習活動等も予定されていたものができず、生徒が様々な悔しい思いをしながら1年間過ごして参りました。各分掌等からも説明があると思いますが当初予定していたこと、計画していたことがことごとくできなかつたので、教員評価も昨年度と比較すると、評価できないとマイナスの数値が多数あります。そういう事情であることをご了解いただきたいと思います。

今年度は様々な制約がある中で、現3年生は高校総体という非常に大きな大会がなくなりましたが、いち早く気持ちを切り替えて自分の進路達成のために努力をしてきた姿がありました。それは1・2年生に対して力強い先輩方の姿として映っていると思います。次年度はそういうことなく子どもたちの活動を、感染対策を十分施しながら思う存分にやらせてあげたいと考えております。今日は様々なご意見を賜り、次年度に向けてそれを生かして参りたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

### ◆教職員・生徒・保護者アンケート結果について

（教頭）教員の本校に対するアンケートの結果について。学校運営全般は昨年度と比較してかなり落ちている。これは「達成できた」という部分が「ほぼ達成できた」に下がってきているところがかなり見受けられた。更に、「よくわからないので解答不能」となっている部分が増加した。原因は、今年度の学校の活動はコロナ禍ということがあって、学校全体で動くことが非常に希薄であり、教員間の意思疎通が十分持てなかつたので、このような数値になったのかなと考えている。

（1）14の「職員の休憩室が利用できやすい状態である」は毎回数値が低いですが、継続して改善していく。以下教務部、生徒指導部、進路指導部、環境保健部、渉外部、図書部、事務部、各学年の平均値も著しく数値が下がっている部分があるが、その主な原因はコロナ禍のために予定していたものを実施できなかったというところが大きい。（7）図書部は年度内に図書主任が体調を崩して数カ月休んだので、図書の活動が若干低下した事情がある。今年度は学校教育活動において特異な一年であり、各分掌・学年でも手探り状態であったことを踏まえて、数値が著しく下がった部分は再度確認して次年度に生かしたい。

保護者アンケートについて。平均で3.0を下回っているのが（8）「家庭との連携を密にしながら、生徒一人一人に即した指導が行われている」は残念ながら3.0を下回り2.8であった。緊急事態宣言が4、5月にあり、生徒は自宅での学習であり私たちもできる限りサポートに努めたが、保護者からすればまだまだ違うサポートや指導が欲しかったという感想を持っていたと思われる。

生徒の意識調査結果について。各教科の指導、学校行事、部活動や委員会活動、所属する学年について、どの数値も昨年度と比較して下がっているところはない。4「所属学年」については例年と大体相違ない。「設備」については3年生が進路棟なので、クーラーがついていない、冬になれば寒い等の不満は例年と変わらず、数値は低かった。次年度はクーラーの設置を含めて改善していきたい。

#### ◆分掌年間評価等（教務部・生徒指導部・進路指導部）

##### 教務部

(1) について、授業が一番大切であるということから、出張や事前にわかっている年休の場合の授業変更では、別日への振替を基本にしていた。概ね、振替により授業変更されていたが、総合的な探究の時間など一部の授業での授業交換がうまくできていなかった。定期的に授業時数を確認しながら、予定された授業時数から過不足がないよう、最終的には調整をして対応したが、来年度は授業変更の時点で確実に振替ができるように取り組んでいきたい。

C l a s s i については、年度初めの臨時休業期間中に導入された。通常であれば、導入時にC l a s s i 社から使い方に関する研修会が実施されることが多いが、今年度は緊急事態宣言下であったため、研修会も実施されなかった。そのような中で先生方それぞれが使い方を模索し、生徒や保護者との連絡ツールとして非常に良く活用できた。来年度も継続して活用する予定である。C l a s s i にはコミュニケーションツール以外に学習支援の機能もあるので、年度初めにC l a s s i 社から講師を呼んで研修会を実施し、どのような場面で活用できるのか、先生方で研修をしていきたいと考えている。

(2) について、9月に校内授業見学週間を設け、自分の教科と他の教科の授業を参観してもらった。授業の感想や意見等をワークシートに記入・提出してもらい、後日、授業担当者に配布する形で、先生方の授業改善に役立てることができた。各教科の研究授業も予定通り実施することができたが、こちらは他教科の先生方の参加率が低かったのが課題となっている。他教科の授業を見学することで、自分の授業に生かせる部分が多くあると思うので、来年度は他教科の研究授業も積極的に参観するように働きかけたい。

(3) について、今年度は新型コロナウイルス感染症により中止せざるを得なかった行事もあったが、多くの行事では感染症対策を踏まえて実施方法を検討し、他の分掌と連絡を取り合うことで実施することができた。

令和4年度入学生から、新学習指導要領が実施されることに伴い、授業改善推進プロジェクトで検討を重ねてきた。令和4年度入学生が大学入学共通テストを受検する2025年度入試科目の正式公表が、大学入試センターによると今年度中を目処に公表される予定であることもあり、現在も継続して検討している。入試を意識しつつも、学校で育てたい資質や能力、生徒が社会に出た時に必要な力は何なのかということも視野に入れながら、来年度初めには決定していきたい。

8月の中学生体験入学では952名の参加申し込みがあった。熱中症対策と創立120周年のPRも兼ねたうちわを作成し、参加者に配布した。また、第一体育館の密空間をできるだけ回避するために、引率教員と保護者の会場を講堂に移し、校内のLAN回線を利用してライブ配信することで実施することができた。

I C T環境では事務部に依頼し、2階ホームルーム教室にプロジェクターを設置、休校時になった際のオンライン授業に備えてウェブカメラとビデオカメラを購入した。結果的に休校にはならなかったが、Z o o mによるオンラインセミナーや大学入試の面接をオンラインで実施する際に活用することができた。

奨学金については、150名の申し込みがあり、滞りなく申し込み手続きを進めることができた。昨年度から給付型奨学金制度がスタートした。住民税非課税世帯・準ずる世帯という条件はあるが、この制度を知らない保護者もいるかもしれないため、来年度は全員に周知できるような資料の工夫をしたい。

## 生徒指導部

### 1 基本的な生活習慣の確立

①全教員で手分けして登校指導したいが、担任は朝からの電話対応で玄関に出ることは難しいので、生徒指導部で元気のよい挨拶ができるように指導してきた。②の遅刻者は一日一人出るか出ないかである。自家用車利用についての交通渋滞は苦情の電話は以前からあった。C l a s s iなどを利用して注意喚起を行っている。③について感染予防のため部活動は18:00までにしており、勉強して居残りしたい生徒も18:30までには下校させ、家庭での休息、学習時間の確保としているが、ミーティング後も距離を確保せずおしゃべりしているので我々も注意している。④の自転車盗難の報告は0件であった。⑤について、スマートフォンを総探の時に活用しており、その延長で探究の目的以外で使用し、没収となる生徒もいた。

### 2 生徒指導上の諸課題の未然防止、早期発見・早期対応

①について今年度はグループエンカウンターを実施していない。積極的に交流できるような場を当該学年に頼らざるを得なかった。②は学校カウンセラーの小玉先生に延べ人数5名の面接をしてもらい、生徒、保護者、教員、担任、学年主任とアドバイスをいただいて対応した。また、年間4回の生徒理解研修を実施し、各学年、各クラスで気になる生徒を挙げてもらい、対処方法・経過報告と情報の共有し、全職員で共通理解を深めた。③のいじめ防止対策として、年に2回「アセス」という心理検査を実施し、点数化し引っかかった生徒、引っかからなくても気になる生徒を各担任に提示してもらい、精神的に悩んでいる生徒や、いじめが疑われている生徒を面談し、確認作業をしてもらった。6月と11月には「アセス」の結果を見て、小玉先生を招いて生徒理解研修で助言をいただいた。年2回の学校生活アンケートはC l a s s iを用いて、生徒に書き込んでもらっている。それで、私たちが目の届かない休み時間の様子や、他教科の様子などを知ることができている。

### 3 安全で安心できる学校環境の確立について

①交通安全教室が中止となり、4月に全校集会で自転車走行や歩行のマナーを生徒に話すだけとなった。今年も9件の自転車事故があったので、各学年にも注意を呼びかけ、生徒へ指示や指導をお願いしてきた。②保護者による生徒の送迎時における路上停車がいまだに多く、生徒を通じて呼びかけている。先日もC l a s s iを通じて連絡したが、長年の本校の課題である。本日も公園側で路上駐車して降車させている風景が見られた。③今年度の懲戒処分は0件だったが、他校ではSNS上のトラブルが報告されているので、適切に対処していきたい。④120周年の公演会で「地球のステージ」という神奈川県の実験校の被災地や戦

地での活動を生徒に見せる機会のスタッフとして携わってきた。生徒が地球のステージを見て自分の進路を考える良いきっかけとなったようだ。

#### 4 「8つの力」の育成を目指した諸活動の充実

①本校の特色として、新入生歓迎会、中央祭など生徒会執行部の運営が活発であるのが本校の特色であったが、今年度は短縮や簡略化となってしまった。②部活動の活動計画は指針に基づいて活動している。しかし、先ほどのC l a s s iによる生徒アンケートの結果をみると、「土日どちらかを休ませて欲しい」や、「課題の分量を考えて欲しい」とあるので、生徒会長と部活動、運動部、文化部に歩み寄って話し合っているところである。③冬期間の外で活動している部活動の活動場所確保のため、1体、2体を割り振って活動している。新型コロナウイルス感染対策のため活動時間を18:00までとし、確実に自宅で休息を取らせることを目指している。

### 進路指導部

#### (1) 連携した指導体制の確立

イ 今年度は外部セミナーやオープンキャンパスの案内等が進路の方で情報を整理しながら必要に応じて学年の掲示板等で連絡した。ただ、セミナーやオープンキャンパスが突然、Z o o mというオンラインミーティングツールへの切り替えがあった。申し込みや、慣れない手続き等で対応にとっても苦慮した。ツールの活動と環境整備が求められるのだというのが課題である。

ウ 授業の充実・改善についてアクティブラーニングやペアワークが新型コロナウイルスの感染防止の立場から難しく、休校措置等で授業数の減少のため、進度確保しなければならないので、教員側からの一方的な講義というスタイルが多くなってしまったと思う。これからはタブレットの導入があるので、デジタル教科書等の使用を視野に入れて、教務等と協力して整備していく必要がある。

エ 教員の指導力向上のため、弘前大学、東北大学前期の問題を教員が解説集を作成し残すということが3年目になった。各教室に3冊それぞれ残っているが、これを現3年生がうまく活用している。赤本等では解説がざっくりしてよく分からないが、詳しく書かれているので、現3年生はよく使っている。小論文指導はどちらかという志望理由書の作成になる。県外の予備校研修も企画していたが、関東圏、関西圏も含めてコロナが今後このまま収束していくということは考えづらいので、次年度はオンラインへ移行しながらの参加を視野に入れた計画を立てていきたい。

#### (2) キャリア教育の充実

ア 一年生初めての講話である職業人講話を計画したが、弘前のクラスターがちょうど発生したため、直前になって中止となった。快く引き受けてくださった講師の皆様には申し訳ない思いますが、来年同じような形で実施できればと考えている。

イ 職員のキャリア教育意識向上のために福岡のある高校の校長とz o o mというオンラインミーティングツールを活用した研修会を秋に実施することでできた。職員全員とシステムを活用した研修会が初めだったがうまくいったので、このようなことを視野に入れながら、来年の計画をしていかなければいけないと思っている。

#### (3) 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、進路選択へ向けた助言・指導

ウ 現3年生に対する推薦・総合型対策とあるが、今年度からAOという名前から総合型と名前が変更になっているので、推薦・総合型という言い方になっている。現3年生は2年生の2月頃から説明会等で指導がスタートしている。今年度も志望理由書等の指導や集団討論、プレゼンテーション、面接指導等を長期に渡って指導することができた。プレゼンテーションは1・2学年の生徒も参加してくれるなど、他学年を巻き込みながら指導している。残念ながら集団討論にはコロナのこともあるので参加の声をかけなかったが、来年度はまた、様子を見ながら3年生だけでなく、低学年のことも考えた指導を計画していきたい。

#### (4) 情報提供

ア 全国にわたる大学や企業等からの情報を、必要に応じて教室や各学年の掲示板に整理しながら掲示している。このようなものは生徒達の総合的な探究に直結するものも多い。これからはC l a s s iによって教員、学校側から生徒個人、保護者等へ様々な情報を発信することが可能になる。生徒や保護者はタブレット、スマホなどで見ることができるので、こういったものの配信を検討していきたい。

エ 今年初めて共通テストが実施された。第一日程、第二日程の2回あったが、本校は全員第一日程で受験することができた。今現在、2月5日までの出願締め切りで、最中前期、中期、後期のあわせた出願をしている所である。今後2025年に向けて、今後英語の4技能がどのように扱われるか、生徒の主体性評価がどういう形で評価されるのかと言ったところを注視しながら、指導に反映させていきたい。

#### 1 大学入学共通テストの出願状況

2021年今年の出願者数は219名。( )内は男子生徒。実際に受験した数は216名で3名は受験していないが、すでに「進路が決定しているやそういう事情での受験をしなかった」ということである。出願率は全体の92.8%となっており例年並みである。

#### 2 国公立大学出願者数及び合格者数

概ね前期167名の出願予定となっている。中期が4名の出願、後期が146名の予定。合計およそ317名の出願予定。

弘前大学は前期167名のうち83名の予定。また、後期146名中73名の出願予定。合計317名中156名になっているが、まだはっきりとした数字ではない。国公立出願の半数は毎年、弘前大学の出願となっているので、今年度も同じようになりそうだ。新聞報道等でもあったように今年度の弘前大学の出願の出足が鈍いが、例年と違って今年度から前期、後期合わせて志望理由書を書かなければならないということが、これまでになく書類となっており、また、点数化されるということで、そう行ったことも出足の低迷につながっていると思われる。

#### 3 四年制大学推薦・総合型入試結果一覧

国公立の受験者数26名、合格者数12名だが、共通テストを課さないものの合格者数となっている。総出願者数は国公立38名、うち12名が共通テストの成績も加味して合否が出されるのでその分は入っていない。私立大学の方は全て合否が明らかになっている。今年度は17名出願し、16名合格。

#### 4 公務員の合格状況

公務員2名、一般が1名、計3名が就職希望で、全員志望通りの場所に合格している。

## ◆質疑・応答、意見交換等

(大学教授)

コロナ禍の中で完全に元の状態に戻らないのではないかとされており、ICTなどを利用していく、あるいは今後そのまま残していく部分、対面授業やそれがなければ得られないなどいろいろと先生達が模索しながら生徒の指導にあたっているのが手を取るようになった。特に2ページの先生方の自己評価の中で、授業時数確保するために様々な手立てをされているということでコロナ禍の中でもできることを先生方が考え、生徒のためにされていることがよく分かった。また、国公立の大学へたくさん進学しているし、コロナ禍で共通テストの対応を何年も前から準備しているということが手を取るようになった。私も卒業生でとして誇りに思っている。

今回私は同窓会の幹事の予定だった。オリンピック年にするというのが私たちの学年での決まり事になっていたのでとても残念に思っている。しかし、いろいろな意味でつながりが大切だということが分かった。生徒アンケートからも生徒の言葉が得られるということは自由に言葉を言える校風であるのだなと感じている。先生方のご指導に感謝を申し上げる。

(有識者)

分からない言葉がいろいろ出てきているけれども、すごく良い取り組みをしているし、進んでいるのだなと思った。尾上総合高校でスクールソーシャルワーカーをやっており、お呼びがかかると中南地区へ派遣で相談を受けに行っている。進学校と言われる学校からの相談で、アクティブラーニングやペアワークが苦手でいじめにあって不登校になったケースが2校あった。例えば男女でペアワークをする時に男の子が女の子とやるのが苦手で睨みつけるところからいじめになり、学校へ通えなくなっていくという相談を受けたことがある。おそらく津軽の生徒たちは積極的に話し合うことが苦手なのだと思う。不登校解決の大事なところは授業であり、授業がいいと生徒は学校に来る。アクティブラーニングやペアワークの仕方の研修は十分していると思うが、そういうことが思春期の子どもたちに別の影響を及ぼすことがあったので情報提供として伝えたい。

(PTA会長)

まず、コロナ禍の中で先生たちが本当に一生懸命頑張ってくれて、無事共通テストを受けることができたし、これから前期試験に向かうこともできる。本当に感謝している。6ページからの保護者の意見を見ていたのだが、保護者の代表として学校へのお礼の言葉もあれば、少しきついような言葉もあった。しかし、これが保護者の素直な気持ちだと思う。出来ることからでいいので改善してもらえればもっと良い場所になるのかなと思っている。

(後援会理事)

今年はコロナで大変な年であったと思う。また、新たにClassiを導入したということで先生方にとっては多少の負担があったのではと思う。使いこなすと非常に便利なツールだし、保護者への情報が早いことや、紙で来る文書が送られてくるよりも環境にも優しいのかなと思う。また、奨学金の話があったが、親としてはできるだけ早く、1年生のころからそういう話が入ってきて、推薦や入試の情報が入ってくるのが望ましいと思う。

(同窓会役員)

この1年はどうなるか先が見えない中で、ギリギリの線でいろいろな判断をしてきたのだなと思った。前回文化祭の時に来校したが、各学校で文化祭を中止にしたり、やらなかった

りしたというところがたくさんあった。子どもたちにとっては記憶に残る活動なので良かったなと思った。それも学校の方針の一つなのだなと感じた。子どもたちは3年生になると活気づいてきて、自分の進路を目の前に頑張ろうという意欲があるのだろうなと窺い知れるところである。私は致遠小学校を27年度に退職しているので、前回来た時に校門で迎えてくれた3年生の子どもたちに見覚えがあるなと思った。成長してまた弘大に入ってくるのかなという期待をしている。大学の学生たちと面談し、これから教育現場に出る学生たちなので、今後どのような授業展開していくのかということをも自分たちの体験や経験から掘り下げていく。特別活動や学級会での話し合いやキャリア教育などではどんなことをしてきたのか聞くと、学校によっては「学級活動の時間はワークのテスト勉強だった」や「総学と道徳はほとんど経験していない」ということであった。学級活動や総学、道徳などは今体験して欲しい。後に自分の糧となり、体験してきた学生は子どもの目線に立って、想像しながら話すことができるが、経験していない学生は何をすべきか浮かんでこないようだ。暗記中心の学生生活を送ってきている学生は少なくない。そこで、私たちが教育現場にいたときの話や子ども達の実践的な話をし、対話を通してそれは面白そうだなとなることがある。先ほど話を聞いた中で、できる限りの学校行事をしているということで、良かったなと感じている。教室が寒いという意見があったが、私が中央高校にいたときには制服の下にトレーニングウェアを見えないようにみんな履いていた。生徒会活動と関連付けながら、登下校や普段の生活の中で体を動かすことや短命県返上のために何かをやってみたら楽しいかな、など外部からなので勝手なことをお話した。

#### ◆校長謝辞

(校長) 評議員の皆様から貴重なご意見を次年度の学校運営の方に生かさせていただきたいと思っております。コロナ禍のなかでも決して悪いことだけでなく、良いこともありました。一つは学校の設備ですが、次年度は普通教室にエアコンが設置されます。W i - F i の設備が今年度にほぼ整いましたので、今年度と来年度ですべての生徒にタブレットが配付されます。どんどんICT化の環境が整っております。我々教員もそれに置いて行かれないようにスキルを上げていかなければならないということで課題が増えました。便利なことが急速にでき、国のどこにお金があったのだろうと、実際コロナ禍の中で物は揃いました。

現3年生は共通テストでかなり翻弄されたのですが、エアコン等の設備、ICT設備も来年ということでこの学年は様々な思いをして卒業していくのではないのかなと思っております。これも時代の流れの運命であり、巡り合わせであります。そういう意味でも3年生は立派だったなと思っております。これからもまだまだコロナの状況がどのような形になっていくかわかりませんが一致団結して本校生徒のために一生懸命教育活動に取り組んで参りたいと思いますので今後ともよろしく願い申し上げます、簡単ではございましたが謝辞とさせていただきます。